

注3 **大学番号：私200**

[平成27年度設置]

計画の区分： 大学院の設置

注1

認可

聖泉大学 大学院 看護学研究科

注2

【認可】設置に係る改善意見等対応状況報告書

学校法人聖泉学園
平成30年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成30年3月26日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学研究科

| <看護学専攻> | ページ |
|---------------------------------------|-----|
| 1. 調査対象大学等の概要等 | 1 |
| 2. AC対象学部等を含む大学等の状況 | 2 |
| 3. 教員組織の状況 | 3 |
| 4. 前年度のAC調査において付された意見への対応状況 | 4 |

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人聖泉学園

(2) 大学名

聖泉大学大学院

(3) 大学の位置

〒521-1123

滋賀県彦根市肥田町 720

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 調査対象研究科等の名称等

| 調査対象学部等の名称(学位) | 学位又は学科の分野 | 設置時の計画 | | | 備考 |
|--------------------------------------|----------------|--------|--------|---------|--------------------------|
| | | 修業年限 | 入学定員 | 収容定員 | |
| 看護学研究科 看護学専攻(修士課程) 修士(看護学) | 保健衛生学関係(看護学関係) | 2 年 | 6 人 | 12 人 | 基礎となる学部等 看護学部看護学科 |

- (注) ・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

2 AC対象学部等を含む大学等の状況

| 大学の名称 | 聖泉大学大学院 | | | | | | | | 備考 |
|-----------------|---------|------|-------|------|---------------|-----------|--------|--------------|----|
| 既設学部等の名称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 学位又は称号 | 平均入学定員超過率 | 開年度 | 所在地 | |
| | 年 | 人 | 年次人 | 人 | | 倍 | | | |
| 看護学研究科 看護学専攻 | 2 | 6 | — | 12 | 修士 (看護学) | 1.00 | 平成27年度 | 滋賀県彦根市肥田町720 | |
| 大学の名称 | 聖泉大学 | | | | | | | | 備考 |
| 既設学部等の名称 | 修業年限 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 | 学位又は称号 | 平均入学定員超過率 | 開年度 | 所在地 | |
| | 年 | 人 | 年次人 | 人 | | 倍 | | | |
| 看護学部 看護学科 | 4 | 80 | — | 320 | 学士 (看護学) | 1.06 | 平成23年度 | 滋賀県彦根市肥田町720 | |
| 人間学部 人間心理学科 | 4 | 75 | 10 | 320 | 学士 (人間心理学) | 0.60 | 平成15年度 | 同上 | |

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等については, 必ず記入するとともに, 下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

3 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻（修士課程）>

(1) 設置基準上の必要専任教員数

| | | |
|-------------------------------|------------------------------|---------------------------------|
| 現在（報告書提出時）における設置基準上の必要研究指導教員数 | うち、現在（報告書提出時）における設置基準上の必要教授数 | 現在（報告書提出時）における設置基準上の必要研究指導補助教員数 |
| 6 | 4 | 6 |
| 名 | 名 | 名 |

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日 文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) 専任教員数

| 設置時の計画 | | | | | 現在（報告書提出時）の状況 | | | | |
|---------|-----------|------------|-----|-------|---------------|-----------|------------|----|-------|
| 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 (A) | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 計 (B) |
| 11 | 4 | 1 | 0 | 16 | 8 | 6 | 2 | 0 | 16 |
| (10) | (4) | (1) | (0) | (15) | | | | | |
| 研究指導教員数 | 研究指導補助教員数 | 講義のみ担当の教員数 | | | 研究指導教員数 | 研究指導補助教員数 | 講義のみ担当の教員数 | | |
| 8 | 5 | 3 | | | 8 | 6 | 2 | | |
| (7) | (5) | (3) | | | | | | | |

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

(3) 年齢構成

| 年齢構成 | |
|-----------------|--------------------------------------|
| 定年規定の定める定年年齢（歳） | 報告書提出時（上記(B)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数 |
| 65 | 6 |
| 歳 | 名 |

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(4) 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{16}{16} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況(B)}} = \frac{6}{16} = \boxed{37.5} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

4 前年度のAC調査において付された意見への対応状況

| 意見 | | 履行状況 | | 未履行事項についての実施計画 |
|---|------|---|-----|--|
| <p>・看護学研究科看護学専攻（M）において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。</p> | 改善意見 | <p>平成29年度末において、研究指導教員2名（65歳超の教員）、及び講義のみ担当教員4名（内1名は65歳超の教員）の退職があり、その後任者の補充については、基礎となる看護学部と調整しつつ補充を図ることとしており、定年を延長して採用している教員の割合は改善しているものの、平成30年4月においてすべてを補充することはできず、継続して人事を進めているところである。</p> | 未履行 | <p>左記の後任補充にあたって、若手教員の採用を進めるとともに、看護学部附属キャリアアップセンターでは、現任教育（継続教育）一環として、准教授・講師を中心に研究指導を行っており、研究方法に関する講義、データ分析、論文のまとめ方等に関する個別研究指導の経験を積み、さらに准教授・講師は教授の指導の下、大学院における講義・演習等に参加することによって教育研究者としての成長が期待できる。その上で、順次、昇格人事を行うことにより大学院における教育研究の継続性を担保できるよう、研究科教授会のもとで、基礎となる看護学部と調整しつつ教員組織の将来構想を策定し、採用・昇格人事を行っていくこととする。</p> |
| <p>・同一設置者が設置する既設学部等（人間学部人間心理学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p> | 改善意見 | <p>人間学部の入学選抜については、従来より、推薦、AO、一般、社会人、外国人留学生等、多様な選抜により学生の確保に努めているところであり、学生募集においては、高校教員対象の説明会、オープンキャンパスや教職員による高校訪問等を積極的に実施した。 また、一部の推薦入試を除き県内出身者が大多数を占める本学部の入学者の状況に鑑み、28年度末に新たに県内高校3校と連携協定を締結し、人的交流や知的資源の相互活用による連携協力を推進することにより、協定校の生徒及び教員に本学部の教育研究に対する理解浸透を図る機会の提供に努めた。協定締結後間もないことからこのことによる志願者の増加は現状では顕著には表れていない。 さらに、平成30年度からのカリキュラム改革の一環として、心理分野の資格取得として公認心理師の受験資格を得るために必要な科目を開講することとした。</p> | 未履行 | <p>人間学部における入学定員の充足は本学の重要課題と捉え、喫緊の課題に対応するため検討委員会を設置し、具体的な改善策の検討を行う。また、広報の強化を図るため、平成30年4月に担当職員を採用し、より積極的な広報活動を展開することとしている。 これらの取り組みと、左記の履行状況に示した学生募集の取り組みを積極的に実施することで入学者の増加に繋げていくとともに、新たに設置した検討委員会においては定員充足の改善を含めた検討を進めていくこととする。</p> |
| | | | | |

（注）・前年度の設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。なお、未履行事項がある場合は、今後の実施計画を具体的に記入してください。
・「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。